

# Asia Indicators

発表日: 2022年9月30日(金)

韓国、台湾ともに生産は頭打ちの様相を強める(Asia Weekly(9/23~9/30))

~中国の景気減速に加え、米中摩擦の激化の余波も及んでいる模様~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522)

## ○経済指標の振り返り

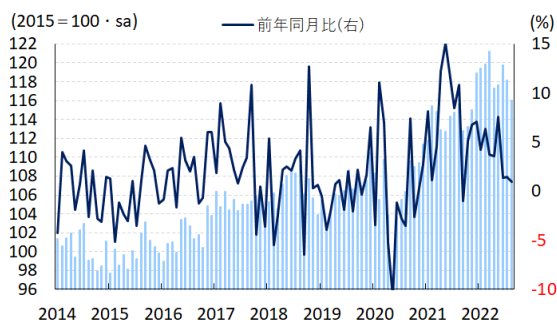
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/22(木)	(台湾)金融政策委員会(政策金利)	1.625%	1.625%	1.500%
	8月失業率(季調済)	3.67%	--	3.68%
	(香港)8月消費者物価(前年比)	+1.9%	--	+1.9%
9/23(金)	(マレーシア)8月消費者物価(前年比)	+4.7%	+4.7%	+4.4%
	(台湾)8月鉱工業生産(前年比)	+3.68%	--	+1.63%
9/26(月)	(香港)8月輸出(前年比)	▲14.3%	--	▲8.9%
	8月輸入(前年比)	▲16.3%	--	▲9.9%
9/28(水)	(タイ)8月製造業生産(前年比)	+14.52%	+10.10%	+6.39%
	金融政策委員会(政策金利)	1.00%	1.00%	0.75%
9/30(金)	(韓国)8月鉱工業生産(前年比)	+1.0%	+1.3%	+1.5%
	(中国)9月製造業PMI	50.1	49.6	49.4
	9月財新製造業PMI	48.1	49.5	49.5
	(インド)金融政策委員会(レポ金利)	5.90%	5.90%	5.40%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## [韓国]~世界経済の減速懸念の高まりを受け、輸出財のみならず幅広い分野で生産に下押し圧力が掛かる~

30日に発表された8月の鉱工業生産は前年同月比+1.0%となり、前月(同+1.5%)から伸びが鈍化した。前月比も▲1.78%と前月(同▲1.34%)から2ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの様相を強めている。商品市況の上振れを追い風に堅調な動きが続いた鉱業部門の生産が頭打ちしているほか、製造業の生産も一段と下振れするなど幅広い分野で生産活動に下押し圧力が掛かっている様子がうかがえる。自動車など輸送用機械関連の生産は堅調な動きが続いている一方、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連などで生産に下押しの動きが強まっているほか、医薬品など化学製品関連や衣類関連などの生産も弱含んでいる。最大の輸出相手である中国の景気減速に加え、欧米など主要国経済も頭打ちの様相を強めるなど、世界経済の減速懸念が高まっていることが生産活動の足かせになっているとみられる。

図1 KR 鉱工業生産の推移



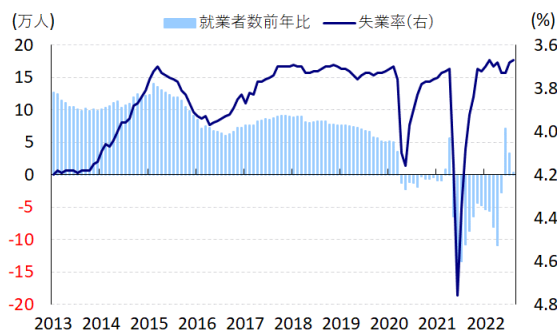
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [台湾]～米中摩擦の余波は生産活動のほか、雇用回復の足かせとなるなど景気に着実に影響している～

22日に発表された8月の失業率(季調済)は3.67%となり、前月(3.68%)から0.01pt改善した。失業者数は前月比▲0.1万人と前月(同▲0.6万人)からペースこそ縮小するも減少が続いている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちしている。一方の雇用者数は前月比▲0.3万人と前月(同+0.3万人)から2ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど緩やかに底入れの動きが続いている。分野別では、感染拡大一服を受けた経済活動の正常化を模索する動きが広がっていることを反映してサービス業を中心に雇用の底入れが確認出来る一方、米中摩擦の激化などを受けた外需を取り巻く環境変化を反映して製造業で調整の動きがくすぶるほか、建設業や鉱業部門の雇用も弱含むなど、本調子にはほど遠い状況が続く。労働意欲の回復が道半ばの状況にあることを反映して労働力人口も前月比▲0.4万人と前月(同▲0.3万人)に続いて7ヶ月連続で減少して中期的な基調も減少傾向で推移しており、労働参加率も59.20%と前月(59.21%)から▲0.01pt低下している。

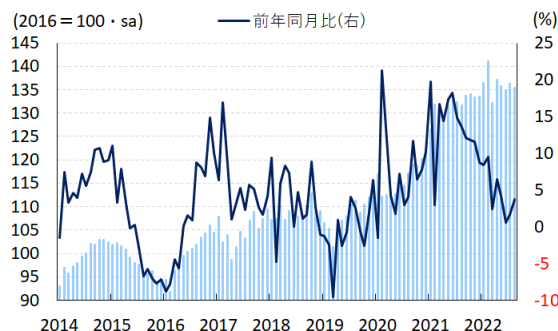
23日に発表された8月の鉱工業生産は前年同月比+3.68%となり、前月(同+1.63%)から伸びが加速した。ただし、前月比は▲0.64%と前月(同+0.96%)から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの状況が続いている。鉱業部門の生産は弱含む動きが続く一方、製造業の生産には底堅い動きがみられるなど対照的な展開をみせている。なお、製造業のなかでは主力の輸出財である半導体など電子部品関連の生産は堅調さを維持しているほか、電気機械関連の生産も底堅く推移する一方、金属関連や化学関連など重化学工業分野のほか、軽工業分野などを中心に調整の動きが強まっており、外需を取り巻く環境が厳しさを増していることが生産の足かせとなっている。

図2 TW 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 TW 鉱工業生産の推移

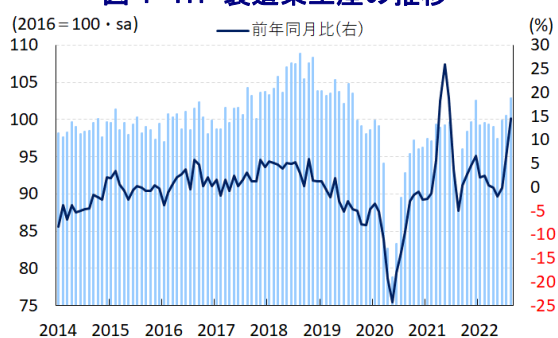


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [タイ]～サプライチェーンの復旧や世界経済の回復が生産活動を後押しも、先行きには不透明感がくすぶる～

28日に発表された8月の製造業生産は前年同月比+14.52%となり、前月（同+6.39%）から伸びが加速した。前月比も+2.36%と前月（同+0.70%）から3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。財別では、主力の輸出財である自動車などの輸送用機械関連のほか、電気機械関連や電子部品関連、化学製品関連など輸出財を中心に生産拡大の動きが広がっており、中国のゼロ・コロナ戦略に伴い混乱したサプライチェーンの回復の動きに加え、欧米など主要国経済を中心に世界経済の底入れが進んでいることが生産を押し上げている。ただし、足下では欧米など主要国経済が頭打ちの様相を強めているほか、中国によるゼロ・コロナ戦略の拘泥も世界経済の足かせとなる動きがみられるなど、不透明感がくすぶる。

図4 TH 製造業生産の推移

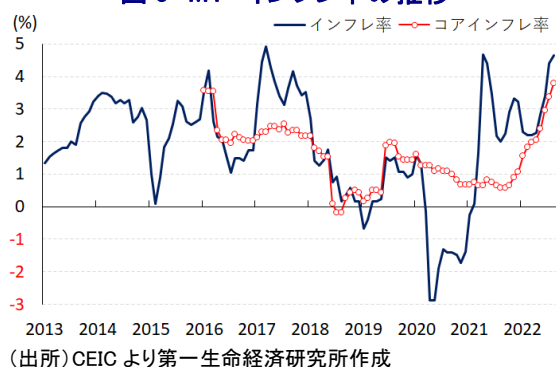


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [マレーシア]～生活必需品で物価上昇一服も、リング安と経済活動の正常化を受けてインフレ圧力が強まる～

23日に発表された8月の消費者物価は前年同月比+4.7%となり、前月（+4.4%）から加速して16ヶ月ぶりの伸びとなった。前月比は+0.23%と前月（同+0.39%）から上昇ペースは鈍化しており、国際原油価格の上昇一服の動きを反映してエネルギー価格は調整しているほか、上昇基調が続いた食料品価格の動きにも一服感が出るなど、生活必需品を中心とするインフレ圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.8%と前月（同+3.4%）から加速しており、2016年に現行基準でのコアインフレ率が公表されて以降最も高い伸びとなっている。前月比は+0.56%と前月（同+0.32%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇一服を受けて輸送コストに下押し圧力が掛かる一方、金融市場における通貨リング安に伴う輸入物価の押し上げを受けて幅広く財価格が押し上げられているほか、経済活動の正常化の動きを反映してサービス価格も上昇基調が続くなど、幅広くインフレ圧力が強まっている様子がうかがえる。

図5 MY インフレ率の推移

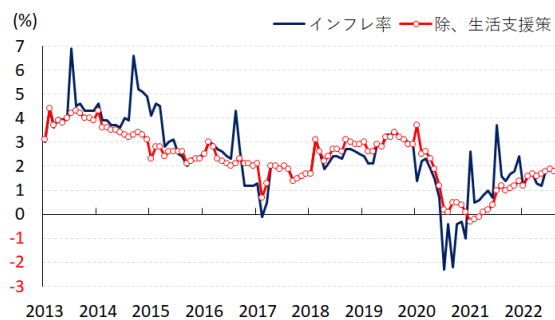


### [香港]～中国本土の「ゼロ・コロナ」拘泥は、香港の物価及び貿易取引の足かせとなる状況が続いている～

22日に発表された8月の消費者物価は前年同月比+1.9%となり、前月（同+1.9%）から2ヶ月連続で同じ伸びとなった。前月比も+0.10%と前月（同+0.10%）と同じ伸びでの上昇が続いており、エネルギー資源価格の高止まりを反映してエネルギー価格は上昇が続く一方、食料品価格の上昇の動きに一服感が出るなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、香港においては2007年以降断続的に公営住宅を対象とする賃料減免措置をはじめとする生活支援策が実施されており、その影響を除いたベースでは当月は前年同月比+1.8%と前月（同+1.9%）からわずかに伸びが鈍化している。前月比は+0.10%と前月（同+0.10%）と同じペースでの上昇が続いており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れが物価の押し上げ圧力となる動きが続く一方、中国本土による『ゼロ・コロナ』戦略への拘泥が経済活動の足かせとなっていることを反映してサービス物価に下押し圧力が掛かるなど、物価上昇圧力が高まりにくい状況が続いていることも影響している。

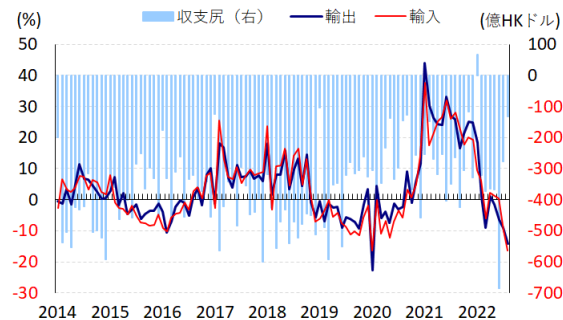
26日に発表された8月の輸出額は前年同月比▲14.3%と4ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月（同▲8.9%）からマイナス幅も拡大している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの様相を強めている。主力の輸出財である機械製品関連を中心に幅広く下押し圧力が掛かる動きがみられる。国・地域別では、米国や欧州など先進国向けに底堅さがみられるものの、アジアをはじめとする新興国向け全般に下押し圧力が掛かっている。一方の輸入額は前年同月比▲16.3%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月（同▲9.9%）からマイナス幅も拡大している。前月比も2ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちの様相を強めている。輸出が頭打ちの動きを強めていることを反映して素材及び部材などに対する需要に下押し圧力が掛かっているほか、国際商品市況の底入れの動きが一服していることも輸入額の重石となっている。結果、貿易収支は▲132.64億HKドルと前月（▲275.54億HKドル）から赤字幅が縮小している。

図6 HK インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図7 HK 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。